

第十二回 日私幼総会ならびに

第五回 日私幼全国教育研究大会に のぞんでの報告

古賀淑子

(一) 日私幼総会に出席して

昭和三十三年度、七月二十六日(第十一回)日本私立幼稚園連合会総会が山口市湯田医師会館においておこなわれ、三十四都道府県から一九七名の評議員が出席して熱心に協議されました。開会の辞、経過報告、理事長挨拶、祝辞あり、笠原理事長が議長席につかれ、事業報告、(1)振興対策について、(2)各種事業について、(3)関係団体について、私立幼稚園の直面する諸問題がそれぞれ資料によって報告され一括承認されました。参考として昭和三十二年五月一日現在の幼稚園数と園児数をあげてみますと、総数六・六二〇校、総園児数六六三・二五三人、国立、三五校、三・二四八人、公立二・二七七校、二二七・六九五五人、私立四、三〇八校、四三二・二七四人でありわが国幼稚園教育の三分の二を担って大いなる貢献をしていることはまことに責任重く、特に日私幼十年の間には難問題を解決しつつ、実に大きく成長し、事業面にも特に教

育研修に力を注ぎ、研究大会、ブロック会、国内研修、私幼時報発行など種々連絡強化を図り、全私学連合会、私学振興会、教職員共済組合、私学研修福祉会など関係団体の中で活動し、殊に本年十月末完成予定の私学会館建設事業(東京都千代田区九段四丁目四番地)(七二・四〇四・二四五円)は竣工を目前にして、いよいよ私立の独自性、建学の精神を発揮し、今一步正しく教育界へ飛躍的前進し今後の活動を期待されるものであります。

高橋副理事長議長席につかれ、予算決算、役員承認並に改選、次回開催地決定、閉会、終了日私幼の発展を祈り万才三唱して、有名な温田温泉の宿舎へと散会した。なお本年度改選によって理事長再任、笠原秀定、副理事長再任、内山憲尚、大河内四郎、新任熊見直太郎の諸氏が決定され、長年労働多く活躍の池田事務局長は練磨された手腕をますます發揮され終止万端活動され、会員の皆が日私幼を自分のものとして親しく相つどうよろこびを感じます。

(二) 日私幼満十年の沿革概要

日本の私学は◎昭和二十一年九月―日本私学団体総連合会を結成◎昭和二十一年末―東京都私立幼稚園協会結成◎二十二年五月―総連合会(第四部小学校の部に包含されて)加盟◎二十三年十月―第五部として独立加盟◎二十四年―全国私立幼稚園連合会と称す◎二十六年―日本私立幼稚園連合会に改称し現在に至るまで初代理事長Ⅱ内山憲尚、第二代Ⅱ青柳美智代、第三代Ⅱ笠原秀定の諸氏及び副会長、有志役員のかたがたは発足以来、今日に至るまで、献身的努力を続けられ、全国各都道府県に団体結成され日私幼の発展と私学振興に寄与された功勞に感謝し末端までの協力を望んでやまないものであります。

(三) 第五回日私幼教研全国大会を通して

日私幼私学研修福祉会主催「第五回日本私立幼稚園教育研究全国大会」は七月二十七、二十八日の両日、全国より千五百余名が参集し、山口市白石小学校講堂を中心とした六会場において熱心な研究協議や講演がおこなわれ、私立幼稚園の質的向上を計り多大の成果を収めて盛況裡に終了しました。

地元幼稚園の先生方は親しみ深く早期に

もかかわらず小郡駄頭まで御出迎えいただき用意されたバスで会場へ誘導され受付を済し、定刻場内の席を埋め氷柱の心尽しを他所に白い扇やハンカチが忙がしくリズムに動きが止まらない開会により式次第が進められ、笠原理事長の御挨拶あり、私学振興、教育研究の意図、熱意は全国へ相互に繋り、地元山口県私幼協会長、大会委員長、熊谷勝円氏は御高令とは思われぬ元気で熱意溢るる歓迎の辞を述べて、大会の意気を昂められました。

教育者にはみあるはずの職務感としての特殊性、ブライド、信念と責任をもって、全人的教育に当らねばならぬ秋、幼児教育界の指針を正確に示せるよう、伸びる芽をたくましく育てるため、日私幼研修福祉会の課題は大きく、今こそ全国双挙して協力研磨し、意義深く発展しなければならぬ折、松下村熟のもとで開催されたよろこびを感じます。

私幼永年勤続二十年、四十年以上のかたを代表して、京都の平沢恭子園長先生の謝辞は保育道の意を徹し、態度音声までさすがに永年保育界に尽粹され貫録を麗しく表わされた私学人の温かさと、感激を与えられ、万場の拍手をもって祝福をうけられました。

栃木県私幼へ感謝状が送られ、文部大臣、

ほか祝辞あり、幼稚園讃歌は私学人の栄ある道へと希望を輝かせつつ講堂にみなきり、式を終了し、各分科会場へと分れてゆきました。

○第一分科

(教育計画)

東京 栄 光 日名子太郎
神田寺 友松 諱 道
愛媛 あけほの 土屋真砂子
千葉 日出学園
二、三年保育の指導計画について
二年および三年保育の指導計画には、どのような準備、計画、実際の指導が必要か。

○第二分科

(道徳教育)

京都 神 泉 鳥越 正道
京 都 大 関 尚 之
神奈川 ひまわり 金子 馨
石川 白 揚 南 愛子
幼児の生活と道徳教育について
幼児に対する道徳教育について考えるべき点は何か。

○第三分科

(音楽リズム)

大阪 箕面学園 田中富美子
京都 相 愛 平沢 恭子
新潟 二 葉 齋藤 正直
神奈川 こゆるぎ 本多玄州
音楽リズムの発達段階別指導について
調和的、基礎的な音楽リズムを幼児に与える場合の注意すべき点は何か。

○第四分科

(絵画製作)

東京 愛 育 植松 治子
ゆかり文化 藤田 復生
栃木 愛 隣 田 中 次雄
東京 白ばら 田中 次雄
創造性を養う色彩、造形による表現教育としての幼稚園における絵画製作の特殊性から特に指導上考慮すべき点は何か。

○第五分科

(施設整備)

佐賀 佐賀新道 古賀 淑子
埼玉 麗 和 中島 修
東京 池 袋 多田 鉄雄
大分 ひまわり 川原 隆夫
実際の教育にあたって(特に三年保育をも考慮して)施設整備の改善工夫すべき点を考えてい。

○第六分科

(教育管理)

愛知 トヨタ 松原 梅一
東京 小金井教会 武南 高志
宮城 聖 光 齋藤 久吉
東京 銀の鈴 五島 宗宣
教育管理の重要点について
幼稚園の教育を円滑におこなうのに必要な諸点について考えたい。どの分科会も熱心に討議され時間不足でした。長沼氏より大会宣言文が発表され、長崎の松尾氏から昨年の義捐金に対し謝辞あり、明年開催地が神奈川と決定、山口県私幼へ謝意を表し、万歳三唱して終了、来年の再会を約して見学旅行へ出かけました。(佐賀新道幼稚園長)